

科目	臨床心理学実習Ⅲ (心A)	単位数	2
担当教員	谷向 みつえ		
履修対象	臨床心理学科3年秋学期		
目的	柏原市の子育て広場ほっとステーションで乳幼児の親子とかかわる体験を通して、臨床心理学的視点から子育て支援の意味や方法について学び、考えを深める。また異世代の人とかかわる力、支援する力、さらには親性の力をも涵養することを目的とする。臨床心理学的な視点をもって地域と交流してみよう。		
達成目標	<p>「関心・意欲・態度」</p> <p>(1) 乳幼児の発達や子育て、親になることに興味や関心を持つ。</p> <p>(2) 利用者とかかわることで「支援する」ことに関心や意欲を持つ。</p> <p>「思考・判断」</p> <p>(1) 人を「支援する」という意味について深く考え、自分の価値感を持つようになる。</p> <p>(2) 乳幼児の発達や親子関係について心理学的見地から見立ての気づきが得られるようになる。</p> <p>「表現・技能」</p> <p>(1) 自分とは異なる世代の人の話を傾聴するスキルが磨かれる。</p> <p>(2) 乳幼児とかかわり、言葉を主体としないコミュニケーション力がつく。</p> <p>「知識・理解」</p> <p>(1) 乳幼児期の発達、親子の関係性について理解が深まり、見立てができる。</p> <p>(2) 臨床心理学的な支援への理解が深まる。</p>		
授業計画			
1	オリエンテーション／本実習の目的と実習施設の説明および実習内容について		
2	子育てを支援する臨床心理学的な意義／現代の親や子どもの心理や子育て環境の現状について考える		
3	子育て支援とは／地域子育て支援拠点の活動内容について学習する		
4	乳幼児期の子どものすがた／乳幼児期の発達の復習と乳幼児発達アセスメントについて学ぶ		
5	乳幼児期の親子関係の特徴／親子とかかわるためのヒントを考える		
6	学外現場実習①／子育て広場の様子を観察してみよう		
7	カンファレンス(1)／学外現場実習①の振り返り		
8	学外現場実習②／子どもやお母さんとかかわってみよう その1		
9	カンファレンス(2)／学外現場実習②の振り返り		
10	学外現場実習③／子どもやお母さんとかかわってみよう その2		
11	カンファレンス(3)／学外現場実習③の振り返り		
12	学外現場実習④／子どもやお母さん、地域の方とかかわってみよう		
13	学外現場実習⑤／広場における支援の意味について考えてみよう		
14	カンファレンス(4)／学外現場実習④⑤の振り返り		
15	まとめ 一実習から得られた体験を振り返って一		
授業形態／具体的な内容	講義、演習形式、学外現場実習(柏原市子育て広場ほっとステーション)		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
適宜、資料を配布する			
参考書	<p>「乳幼児のこころ 子育て・子育ての発達心理学」 遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子, 有斐閣アルマ</p> <p>「子どもの心の発達がわかる本」 小西行郎/ 講談社</p> <p>「乳幼児の発達障害診療マニュアル 健診の診かた・発達の促しかた」 洲鎌盛一, 医学書院</p> <p>「地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き-子ども家庭福祉の制度・実践をふまえて」 渡辺頭一郎・橋本真紀, 中央法規</p>		
成績評価の基準・方法	レポート、学外現場実習評価、実習記録等を総合して評価する。学外実習の実習態度および実習記録に関する学外実習指導者からの意見を評価に加味する。学外実習は指定された日時の中から5回を選び必ず出席すること。講義も含めて出席数が基準を満たさない場合は評価外となる。		

留意点	臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱで習得したスキルや、発達心理学等で学んだ知識をフルに活用して実習に臨むこと、また自ら積極的に行動をおこすことにより多くの成果が得られる。		
準備学習	乳幼児発達心理学、子育て臨床心理学が履修済みもしくは併修であることが望ましい。		
備考	学外現場実習において健康への配慮、遅刻・欠席等の諸連絡は各自の社会的責任事項としてしっかりと自己管理してください。また、利用者に対しては倫理的配慮を守り安全で失礼のない実習態度を遵守してください。	No.	PY622002

科目	臨床心理学実習Ⅲ (心B)	単位数	2
担当教員	久保 信代		
履修対象	臨床心理学科3年秋学期		
目的	発達障害児・者の対人関係を円滑にするための心理教育的支援として、ソーシャル・スキル・トレーニング(以下、SST)の知識と技法を実践的に学び、習得することを目的とします。まずは担当教員のファシリテートによってSSTを自ら体験していただき、最終的には他者のソーシャルスキル習得を支援するための演習を行います。		
達成目標	<p>「関心・意欲・態度」</p> <p>(1)人の行動、及びその行動の背後にある心について関心を持つ。</p> <p>(2)発達障害児者に対するソーシャルスキルの向上のための技法について関心を持つ。</p> <p>「思考・判断」</p> <p>(1)発達障害児者を支援することの意味について考え、自分の障害観を確立する。</p> <p>(2)発達障害児者に起こりやすい対人関係の困難さについて、心理学的見地から見立ての気づきを得る。</p> <p>「表現・技能」</p> <p>(1)SSTに参加し、自らのソーシャルスキルを習得する。</p> <p>(2)他者支援のためのプログラム作成にあたり、他の受講者と建設的な協議を行うことができる。</p> <p>(3)人間の行動を分析し、SSTの技法をベースに心理臨床的な関わりを提供することができる。</p> <p>「知識・理解」</p> <p>(1)発達障害児者のSSTの考え方、技法について理解が深まる。</p> <p>(2)発達障害児者の心情に配慮した対応について考えることができるようになる。</p>		
授業計画			
1	オリエンテーション(自己紹介、授業概要等)		
2	講義:発達障害児者へのSSTの理論と技法		
3	SST①(コミュニケーションに関わるソーシャルスキル)		
4	SST②(コミュニケーションに関わるソーシャルスキル)		
5	SST③(コミュニケーションに関わるソーシャルスキル)		
6	カンファレンス①:SSTプログラム参加へののふりかえり		
7	講義:SST実施に際する環境的配慮		
8	講義:SST実施に際してのアセスメント		
9	SSTのプログラムの作成①		
10	SSTのプログラムの作成②		
11	SSTプログラムの実践①		
12	SSTプログラムの実践②		
13	SSTプログラムの実践③		
14	カンファレンス②:SSTプログラム指導者としてののふりかえり		
15	総括:これまでの学びのまとめ		
授業形態/具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
授業で指示をする			
参考書	<p>「実践ソーシャルスキルマニュアル」上野一彦ら(明治図書2006)</p> <p>「LD、ADHD、高機能自閉症児へのライフスキルトレーニング」小貫悟ら(日本文化科学者2009)</p> <p>「子どもと大人の架け橋」村瀬嘉代子(金剛出版2009)</p>		
成績評価の基準・方法	①授業への出席 ②発表 ③試験によって総合的に評価します。 出席回数が全体の2/3である場合には不可とします。		
留意点	能動的な参加を期待します。技能の学習ですので欠席のないようにお願いします。		
準備学習	発達障害を有する児・者へのアセスメント法や支援技法について学んでおくこと		
備考		No.	